

第 3 9 6 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 8 年 1 月 2 7 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 委員会関係						
提案 1	(機能別委員会) (1)国際委員会運営要綱の一部改正（新規設置 1 件） (2)国際委員会分科会委員の決定（新規 1 件）	(1)国際委員会委員長 (2)会長	5	国際委員会に分科会を設置することに伴い、国際委員会運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	日比谷副会長	(1)会則27条 1 項 (2)内規18条
提案 2	(分野別委員会) (1)分科会委員の決定（追加 2 件）	(1)第二部長、第三部長	8	分科会委員を決定する必要があるため。	第二部長、第三部長	(1)内規第18条
2. 国際関係						
提案 3	令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、変更すること	会長	9	令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、変更する必要があるため。 ※国際委員会 1 月 26 日承認、同アジア学術会議等分科会 1 月 16 日承認	日比谷副会長	令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等代表派遣の基本方針
提案 4	令和 8 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を決定すること	会長	10	令和 8 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定する必要があるため。 ※国際委員会 1 月 26 日承認、同アジア学術会議等分科会 1 月 16 日承認	日比谷副会長	国際学術交流事業に関する内規56条準用
3. シンポジウム等						
提案 5	公開シンポジウム 「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第 4 回】モデルからフィールドへ～基礎研究と現場をつなぐ育種学～」の開催について	農学委員会委員長	12	主催：農学委員会育種学分科会 日時：令和 8 年 3 月 6 日（金）12:00 ～ 13:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 6	公開シンポジウム 「第11回理論応用力学シンポジウム」の開催について	機械工学委員会委員長、総合工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	14	主催：機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会 日時：令和 8 年 3 月 6 日（金）13：00～16：30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案 7	公開シンポジウム 「不登校現象と今後の学校づくり」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	16	主催：心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会 日時：令和 8 年 3 月 7 日（土）14：30 ～ 17:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第 2

提案 8	公開シンポジウム 「東日本大震災の 「記憶」を振り返 る」 の開催について	史学委員会委員 長、哲学員会委 員長、若手アカ デミー代表	19	主催：史学委員会・哲学委員会合同科学 技術・学術の政策に関する歴史的・理論 的・社会的検討分科会、若手アカデミー 日時：令和 8 年 3 月 9 日（月）13：00 ～ 17：20 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六 本木） ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案 9	公開シンポジウム 「教育データのさら なる利活用の促進に ついて考える」の開 催について	情報学委員長、 心理学・教育学 委員会委員長	22	主催：情報学委員会・心理学・教育学委 員会合同教育データ利活用分科会 日時：令和 8 年 3 月 10 日（火）13：00～ 17：30 場所：京都大学学術情報メディアセン ター南館 2 階 マルチメディア講義室 201（京都府京都市左京区）（ハイブリッ ド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案10	公開シンポジウム 「響き合ういのち 一 種をこえて共に生き る生物たちの新しい 世界」 の開催について	農学委員会委員 長、食料科学委 員会委員長	25	主催：食料科学委員会・農学委員会合同 農芸化学分科会 日時：令和 8 年 3 月 11 日（水）15：15 ～ 17：45 場所：同志社大学今出川キャンパス（京 都府京都市上京区） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案11	公開シンポジウム 「国立心理科学研究 所構想の推進」 の開催について	心理学・教育学 委員会委員長	27	主催：心理学・教育学委員会心の総合基 礎分科会 日時：令和 8 年 3 月 16 日（月）13：00 ～ 16：10 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六 本木） ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案12	公開シンポジウム 「半導体テクノロ ジーはウェルビーイ ングを向上させられ るのか？」の開催に ついて	電気電子工学委 員会委員長	29	主催：電気電子工学委員会デバイス・電 子機器工学分科会 日時：令和 8 年 3 月 17 日（火）13：30～ 18：00 場所：東京科学大学大岡山キャンパス （東京都目黒区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案13	公開シンポジウム 「教育改革と可視化 ー生成AIによる教育 改革」の開催につい て	総合工学委員会 委員長	32	主催：総合工学委員会科学的知見の創出 に資する可視化分科会 日時：令和 8 年 3 月 19 日（木）14：00～ 17：00 場所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみ ちホール（大阪府大阪市東淀川区）（ハ イブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案14	公開シンポジウム 「第72回構造工学シ ンポジウム」の開催 について	土木工学・建築 学委員会委員長	34	主催：土木工学・建築学委員会 日時：令和 8 年 4 月 11 日（土）09:00～ 17:45 令和 8 年 4 月 12 日（日）09:00～ 12:00 場所：国立大学法人宇都宮大学 陽東 キャンパス（栃木県宇都宮市） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案15	公開シンポジウム 「周周期等口腔機能 管理の意義と課題」 の開催について	歯学委員会委員 長	37	主催：歯学委員会病態系歯学分科会、基 礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会 日時：令和 8 年 4 月 18 日（土）15：00 ～ 16：30 場所：朱鷺メッセ新潟県コンベンション センター （新潟県新潟市中央区） ※第二部承認	—	内規別表第 2

提案16	公開シンポジウム 「国際シンポジウム：誤情報・偽情報時代のリスクコミュニケーション：食品安全に資する正確な情報伝達」 (Risk Communication in the Age of Mis- and Disinformation : Delivering Accurate Information in Food Safety)	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	39	主催：食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会 日時：令和8年5月19日（火）13：00～15：05 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「ライフステージからみた口腔機能の獲得・維持・向上と全身の健康」の開催について	歯学委員会委員長	41	主催：歯学委員会臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会 日時：令和8年5月21日（木）13：00～15：00 場所：沖縄コンベンションセンター劇場棟（会議場C）（沖縄県宜野湾市） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「世界観と地域の多様性から考える人と自然のウェルビーイング」の開催について	統合生物学委員会委員長、環境学委員会委員長	43	主催：環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会 日時：令和8年5月23日（土）14：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム 「第38回環境工学連合講演会」の開催について	環境学委員会委員長	45	主催：環境学委員会環境科学・環境工学分科会 日時：令和8年5月26日（火）9:30～17:30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム 「脳と摂食嚥下のクロストーク～健康長寿社会実現に向けた未来への道標～」の開催について	歯学委員会委員長	49	主催：歯学委員会臨床系歯学分科会、病態系歯学系分科会、基礎系歯学分科会 日時：令和8年6月21日（日）13：50～15：50 場所：ウインクあいち（愛知県名古屋市中村区） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案21	公開シンポジウム 「歯科基礎医学研究から社会実装へ」の開催について	歯学委員会委員長	52	主催：歯学委員会基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会 日時：令和8年9月5日（土）17：00～18：30 場所：愛知学院大学名城公園キャンパス（愛知県名古屋市北区） ※第二部承認	—	内規別表第2

4. 後援

提案22	国内会議の後援をすること	会長	54	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム ・第90回特別企画：日本学術会議「循環器・腎・代謝内分泌分科会」との合同企画セッション「心腎代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）を本邦でどう考え、どう展開するのか」 ・化学工学会第91年会特別シンポジウム「2050年カーボンニュートラルへの道」 ・化学工学会第91年会シンポジウム「SDG s 達成に向けた札幌宣言の実行―プラスチック資源循環に向けた行動変容と新たな価値の創造―」	—	後援名義使用承認基準 3（2）ウ
件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は2月27日(金)14:30～開催予定。					56

国際委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(組織) 第 1 (略)				(組織) 第 1 (同左)			
(分科会等) 第 2 (略)				(分科会等) 第 2 (同左)			
分科会等	調査審議事項	構 成	備 考	分科会等	調査審議事項	構 成	備 考
(略)				(同左)			
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025 分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025 分科会	(同左)	(同左)	(同左)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2026 分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2026 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	副会長（日本学術会議会則第 5 条第 3 号担当）及び会員又は連携会員若干名	設置期間：令和 8 年 1 月 27 日～令和 8 年 9 月 30 日	(新規設置)			
(略)				(同左)			
第 3 ～ 第 4 (略)				第 3 ～ 第 4 (同左)			

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2026 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2026を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設置期間	令和8年1月27日～令和8年9月30日
6	備考	※平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（新規１件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2026 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小田中 直樹	東北大学大学院経済学研究科教授	第一部会員 第一部幹事
上東 貴志	神戸大学計算社会科学研究センターセンター長 ／教授	第一部会員
白波瀬 佐和子	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授	第一部会員
日比谷 潤子	国際基督教大学名誉教授	第一部会員 副会長
岡村 康司	大阪大学大学院医学系研究科教授	第二部会員
小口 高	東京大学空間情報科学研究センター教授	第三部会員
高田 保之	九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際 研究所特命教授・名誉教授、エディンバラ大学名 誉教授	第三部会員
中村 卓司	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国 立極地研究所教授	第三部会員
小谷 元子	東北大学理事	連携会員
坂元 晴香	聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科客員准 教授	連携会員
菅野 早紀	青山学院大学経済学部准教授	連携会員
中村 桂子	東京科学大学名誉教授	連携会員

【設置予定：第 396 回幹事会（令和 8 年 1 月 27 日）、決定後の委員数：12 名】

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加 2 件）

（基礎医学委員会 IUBMB 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
田代 聡	広島大学原爆放射線医科学研究所教授	第二部会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、決定後の委員数：8 名】

（化学委員会 IUC r 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小島 優子	三菱ケミカル株式会社分析物性研究所主幹研究員	第三部会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、決定後の委員数：16 名】

令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の変更（案）について

以下のとおり、令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣(第 389 回幹事会(令和7年8月 29 日))の変更を行う。

	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考 (※)
			計			
1	第 25 回アジア学術会議 の開催準備に係る調整及 び事前調査等	3 月 12 日	1 日	カンボジア (シェムリアップ)	高山 弘太郎 第二部会員 (豊橋技術科学大学大学院工学研究所教授／愛媛大学大学院農 学研究科教授)	第 2 区分 ・会議の追加

(※) 令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 381 回幹事会決定)に基づく区分。

●令和 8 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

〔 令 和 8 年 月 日 〕
〔 日 本 学 術 会 議 第 幹 事 会 決 定 〕

アジア学術会議は、アジア域内での学術交流と協力を促進する基盤を提供し、全体論的な展望と構想を作り、その実現を諮ることを目的としており、その目的の達成は、アジア域内の各国において参加国間の連絡調整を行い、学術に関する研究発表及び討論等を行う会議を開催することにより行うこととなっている。

アジア学術会議においては、日本学術会議が事務局を担っていること、また、日本学術会議会員等が事務局長を務めていることから、令和 8 年度の国際会議等への代表者の派遣は下記の方針に基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・アジア学術会議大会（国際シンポジウム、理事会、国際共同プロジェクト・ワークショップ等で構成）に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(2) 第 2 区分

- ・アジア学術会議の開催・運営に関する会議である、アジア学術会議役員会議等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。
- ・次年度以降の開催準備に係る調整及び事前調査等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(3) 第 3 区分

- ・アジア学術会議の加盟機関拡大のため、アジア学術会議事務局長を含む会員等を非加盟機関本部等に派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和8年度アジア学術会議関連会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

公開シンポジウム

「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ

【第4回】モデルからフィールドへ ～基礎研究と現場をつなぐ育種学～

の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年3月6日（金）12:00 ～ 13:30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中で、「育種」は安定した食料生産と社会課題の解決、そして地球環境の保全に直結する重要な領域である。

本ウェビナーシリーズでは、育種分野の第一線の専門家を招き、現場の課題から人材育成・知的財産・社会との関わりまで、多角的に議論する。水産・作物をテーマとした第1回、畜産分野の育種と次世代の人材育成に焦点を当てた第2回、遺伝資源と持続可能な社会に焦点を当てた第3回に続き、第4回では「モデルからフィールドへ～基礎研究と現場をつなぐ育種学～」というテーマで、分子遺伝学、特にゲノム編集等の研究成果がどのように育種に使われているか、その現状と課題、そして将来展望について議論する。

9. 次 第：

12:00 開会の挨拶

江面 浩（日本学術会議連携会員／筑波大学生命環境系特任教授）

12:05 「ゲノム編集による「産業植物」の開発」

— 栄養繁殖作物ジャガイモと薬用植物カンゾウを例に —

村中 俊哉（大阪大学先導的学際研究機構特任教授）

12:40 「ゲノム編集イネの開発最前線：モデルからフィールドへ」

— フィールド試験が示す新たな可能性 —

小松 晃（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門上級研究員）

13:15 総合討論

進行

門田 有希（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 11 回理論応用力学シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本工学会理論応用力学コンソーシアム
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 3 月 6 日（金）13：00 ～ 16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
古典力学は、機械工学におけるいわゆる 4 力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化に伴い、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これらの諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。本シンポジウムは今回が 11 回目となるが、上記を背景に、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論を重ねてきた。その中で、昨年度は日本で活躍する外国人研究者が中心となりシンポジウム講演者の選定を行い、すべての講演を英語で行うなど、ダイバーシティ&インクルージョンを重視したシンポジウムを企画した。本年度は、国際理論応用力学連合（IUTAM）のシンポジウムに採択されたテーマに関連し、昨年度に続き、日本で活躍する外国人研究者とともに本シンポジウムを企画した。
9. 次 第：
Part1 司会：Timothée Mouterde（東京大学大学院工学系研究科講師）

- 13:00 開会挨拶 高木 周（日本学術会第三部会員／東京大学大学院工学系研究科教授）
- 13:10 荒木 稚子（日本学術会議連携会員／東京科学大学工学院機械系教授）
「The role of solid mechanics in solid-state ionic device research: an example」
- 13:40 Ettore Barbieri（国立大学開発法人海洋研究開発機構付加価値情報創成部門主任研究員）
「Curvami: an open-source software for curved origami」
- 14:10 高木 賢太郎（豊橋技術科学大学大学院工学研究科機械工学系教授）
「On the analytical solution of a coupled multiphysics model for ionic polymer-metal composite (IPMC) sensors」
- 休憩（10分）（14:40～14:50）
- Part2 司会：Ettore Barbieri（国立大学開発法人海洋研究開発機構付加価値情報創成部門主任研究員）
- 14:50 金子 暁子（日本学術会議連携会員／筑波大学システム情報系教授）
「On the analytical solution of a coupled multiphysics model for ionic polymer-metal composite (IPMC) sensors」
- 15:20 Dan Daniel（沖縄科学技術大学院大学(OIST)准教授）
「An electrifying farewell: how evaporating drops dance and explode」
- 15:50 武石 直樹（九州大学大学院工学研究院准教授）
「Control of capsule migration using pulsatile flow: a numerical analysis of a fluid-membrane interaction problem」
- 16:20 閉会挨拶 山西 陽子（日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授）
- 16:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

公開シンポジウム
「不登校現象と今後の学校づくり」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会
2. 共 催：教育関連学会連絡協議会／日本教育学会（確認中）／京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE. FORUM／科学研究費基盤研究（B）「子どもの多様なニーズに対応するパフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善」（代表：西岡 加名恵）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 3 月 7 日（土）14：30 ～ 17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

文部科学省が令和 6（2024）年 10 月に公表した「令和 5 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、不登校児童生徒数が過去最多を記録したことが示された。

子どもたちの十全な発達と学力を保障するという観点からは、教育機会確保法（平成 28（2016）年制定）で示されたとおり、学校以外の居場所を確保するといった支援の充実も重要である。一方で、学校の在り方を問い直し、「学校」という概念そのものを捉え直すことも喫緊の課題であろう。

そこで本分科会では、不登校をめぐる様々な分野での研究成果を集約するとともに、学校の在り方を問い直すことで包摂性を高めているような事例を検討してきた。これらを踏まえつつ、今後、求められる「学校」の概念、並びに学校づくりの方向性を考究する。

本シンポジウムでは、本分科会で蓄積してきた議論の到達点を紹介するとともに、今後の学校づくりの在り方について提案し、参加者と議論を深めたい。

9. 次 第：

司会

勝野 正章（日本学術会議第一部会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

三時 眞貴子（日本学術会議連携会員／広島大学大学院人間社会科学研究科准教授）

14：30 開会挨拶・趣旨説明

酒井 朗（日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授）

14：40 報告1 不登校現象と学校づくり分科会における議論の到達点

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授、
教育実践コラボレーション・センター長）

15：05 報告2 子どもの多様性に応えることのできる公教育システムの再構築へー教育行政・学校経営・教職の在り方を問い直すー

浜田 博文（日本学術会議連携会員／筑波大学人間系教授）

15：30 休憩

15：45 全体討論

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授、
教育実践コラボレーション・センター長）

吉田 文（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

上野 正道（日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授）

小方 直幸（日本学術会議連携会員／香川大学教育学部教授）

唐木 清志（日本学術会議連携会員／筑波大学人間系教授）

小玉 重夫（日本学術会議連携会員／白梅学園大学学長、教授）

酒井 朗（日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授）

中井 昭夫（日本学術会議連携会員／武庫川女子大学教育研究所教授／
大学院臨床教育学研究科教授）

浜田 博文（日本学術会議連携会員／筑波大学人間系教授）

本田 由紀（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

松下 佳代（日本学術会議連携会員／京都大学大学院教育学研究科教授）

山田 真紀（日本学術会議連携会員／相山女学園大学教育学部子ども発達学
科教授）

山名 淳（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

油布 佐和子（日本学術会議連携会員／早稲田大学名誉教授）

伊藤 美奈子（日本学術会議連携会員（特任）／神戸女子大学心理学部教授）

16：50 総括・閉会挨拶

山名 淳（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

17：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「東日本大震災の「記憶」を振り返る」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会・哲学委員会合同科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会、若手アカデミー
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 3 月 9 日（月）13：00 ～ 17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：3 月 9 日午前に若手アカデミー会議を開催予定

8. 開催趣旨：

東日本大震災から 15 年が経過しようとする現在において、社会がいかに「記憶」を継承し、その意味を再構築していくのかを多角的に検討することは重要である。災禍をめぐる「語り」は、単なる過去の出来事ではなく、語りの実践やメディア、教育、地域コミュニティなどの具体的な場を通して、今もなお形作られている。

本シンポジウムでは、被災地の語りの変遷、記録と風化の問題、世代間継承の課題、そして国レベルの科学政策・防災政策との接点などを議論する。災禍の「記憶」を固定化されたものとしてではなく、社会とともに変容する動的なプロセスとして捉え、未来の備えや共生のあり方を考える契機としたい。

9. 次 第：

総合司会：門田 有希（日本学術会議連携会員／若手アカデミー幹事／岡山大学大学院環境生命自然科学研究科教授）

13：00 開会挨拶

小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

13 : 05 趣旨説明

杉本 舞（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／史学委員会・哲学委員会合同
科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会副委員
長／関西大学社会学部社会学科教授）

【講演】

13 : 10-13 : 40 「災害をめぐる「語り」をみんなで形作るということー3がつ11にち
をわすれないためにセンターの実践（仮）」

甲斐 賢治（せんだいメディアテーク企画・活動支援室アーティスティックディレクタ
ー）

13 : 40-14 : 10 「災害遺構をめぐる「語り」と「経験」の変遷（仮）」

坂口 奈央（岩手大学地域防災研究センター准教授）

14 : 10-14 : 40 「復興の周縁からー「語りにくさ」を超え、記述を通して見えるもの
（仮）」

山崎 真帆（東北学院大学情報学部データサイエンス学科講師）

14 : 40-15 : 00 休憩

【パネルディスカッション】

ファシリテーター：標葉 隆馬（日本学術会議連携会員／若手アカデミー副代表／慶應義
塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授）

15 : 00-16 : 00 パネル登壇者話題提供（各 15 分）

「災害をめぐる情報（仮）」

関谷 直也（日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究
センター教授）

「災害を「語る」倫理（仮）」

児玉 聡（京都大学大学院文学研究科教授）

「災害を超えて史料を残すということ（仮）」

佐藤 大輔（東北文化学園大学医療福祉学部看護学科講師）

「被災者の生活とウェルビーイング（仮）」

菅野 早紀（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／青山学院大学経済学部経
済学科准教授）

16 : 00-16 : 10 小休憩

16：10-17：10 パネル討論

17：10 閉会挨拶

中村 征樹（日本学術会議第一部会員／史学委員会・哲学委員会合同科学技術・学術
の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会委員長／大阪大学全学
教育推進機構教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会又は分科会委員）

公開シンポジウム
「教育データのさらなる利活用の促進について考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会
2. 共 催：京都大学学術情報メディアセンター緒方研究室
一般社団法人エビデンス駆動型教育研究協議会
3. 後 援： なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 3 月 10 日（火）13：00～17：30
5. 場 所：京都大学学術情報メディアセンター南館 2 階 マルチメディア講義室 201（京都府京都市左京区吉田二本松町）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会では、提言「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言ーエビデンスに基づく教育に向けてー」を 2020 年 9 月末に公表しました。本シンポジウムでは、教育データ利活用（ラーニングアナリティクス）に関連する政策関係者ならびに研究者をお招きして、新型コロナウイルスの影響や GIGA スクール構想の進展、AI 技術などのその後の社会の変化に伴い、教育データの利活用が促進したこと、そうではないこと、さらに注意してすすめる必要があることなど、教育データのさらなる利活用に向けた課題や今後の方向性について議論します。

9. 次 第：

開会

13:00

趣旨説明

- 13:00 「教育データの利活用に関する見解と今後の展望について」
緒方 広明（日本学術会議連携会員／京都大学学術情報メディアセンタ
ー教授）

基調講演

- 13:30 「教育 DX のためのデータ利活用に向けた文部科学省の取組」
伊藤 賢（文部科学省初等中等教育局教育改革調整官／教育 DX 推進室長）
- 14:00 「教育 DX に向けたデジタル庁の取組と今後の方向性」
久芳 全晴（デジタル庁統括官付参事官付企画官）
- 14:30 休憩

データ活用事例の紹介

- 14:45 「初等教育における教育データと生成 AI の利活用の教員継続調査について」
楠見 孝（日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副教育院長・
特定教授／名誉教授）
- 15:00 「教育データ利活用における ELSI（倫理的・法的・社会的課題）と教育
現場での対応アプローチ」
村上 正行（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部教授／スチュー
デント・ライフサイクルサポートセンターセンター長）
- 15:15 「生涯を通じた教育データの利活用」
江村 克己（日本学術会議連携会員／福島国際研究教育機構（F-REI）理
事）
- 15:30 「高等教育におけるデータと生成 AI の活用」
島田 敬士（日本学術会議連携会員（特任）／九州大学大学院システム情
報科学研究院教授）
- 15:45 「教員養成系大学における教育データの利活用に向けた取組」
阪東 哲也（鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授／教師のための
AI・DS 研究開発センター プロジェクト管理室長）
- 16:00 「特別支援教育でのデータ利活用について」
豊川 裕子（京都大学学術情報メディアセンター特定研究員）
- 16:15 休憩

パネル討論

「テーマ：教育データの利活用の将来について考える」

16:30 司会：緒方 広明（日本学術会議連携会員／京都大学学術情報メディアセンター教授）

＜パネリスト＞

伊藤 賢（文部科学省初等中等教育局教育改革調整官／教育 DX 推進室長）

久芳 全晴（デジタル庁国民向けサービスグループ企画官（教育班担当））

楠見 孝（日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副教育院長・特定教授、名誉教授）

村上 正行（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部教授／スチューデント・ライフサイクルサポートセンターセンター長）

江村 克己（日本学術会議連携会員／福島国際研究教育機構（F-REI）理事）

島田 敬士（日本学術会議連携会員（特任）／九州大学大学院システム情報科学研究院教授）

阪東 哲也（鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授／教師のための AI・DS 研究開発センタープロジェクト管理室長）

豊川 裕子（京都大学学術情報メディアセンター特定研究員）

＜指定討論者＞

相原 玲二（日本学術会議連携会員／広島大学上席特任学術研究員／安田女子大学理工学部教授）

椿 美智子（日本学術会議連携会員／東京理科大学経営学部経営学科・大学院経営学研究科教授／東京理科大学理事）

谷口 倫一郎（日本学術会議連携会員／九州大学名誉教授）

17:30 閉会挨拶

美濃 導彦（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所情報統合本部ガーディアンロボットプロジェクトディレクター／京都情報大学院大学副学長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「響き合ういのち 一種をこえて共に生きる生物たちの新しい世界―」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本農芸化学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー
4. 日 時：令和8（2026）年3月11日（水）15：15 ～ 17：45
5. 場 所：同志社大学今出川キャンパス
（京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：（該当のある場合）
開催予定なし

8. 開催趣旨：

自然界に存在する生命体が形作る世界は「競争」だけでなく「協働」によって成り立っている。近年、従来の個体中心的な生命観から、異なる種の生物が密接な接触のもとに共に生きる共生体それ自身が一つの超個体（生物システム）であり進化単位であるにとらえる生命観へのパラダイムシフトが生じた。そして、この新しい視座に立った研究により、農芸化学分野の研究に直接影響する大きな生物学的発見が相次いでいる。そこで、多様な生物種間で繰り広げられている共生を俯瞰し、新奇な知見を知るとともに農芸化学分野への応用の可能性を展望することを目的として、共生に関する最前線の研究を紹介するシンポジウムを企画した。

本シンポジウムは、これまで異分野の研究とされてきた海洋及び陸上の、動物・植物・微生物の間で営まれている外部共生（体外での共生）及び内部共生（細胞内や組織内での共生）の新しい世界を、共生というキーワードの下に一度に見聞する機会を提供することとなる。具体的には、Science 誌の 2024 年の Breakthrough of the Year に選ばれた葉緑体やミトコンドリアに続く「第四の原始的共生起源オルガネラ」である窒素オルガネラ(nitroplast)の発見をはじめとして、哺乳類の消化管における微生物との共生進化、ダイズと根粒菌の共生の根圏での多様な機能などの講演を予定している。これらの研究は学術に革新をもたらすだけでなく、窒素固定技術の発展、化学肥料削減、低環境負荷農法の強化、健康に資する食品栄養学、バイオ燃料生産、生態

学・気候などの環境予測の精度向上など、他方面への応用が期待され、農芸化学研究の新しい地平を拓くものと期待される。

9. 次 第：

15:15-15:20 はじめに

吉永 直子（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

15:20-15:45 「レジリエンス微生物学：微生物叢に共通する機能の理解に向けて」

大坪 和香子（東北大学大学院農学研究科助教）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部特任教授）

15:45-16:15 「イルカと共生細菌が織りなす進化の物語 ～培養が拓いた共生の新世界～」

瀬川 太雄（日本大学生物資源科学部助教）

座長：林 由佳子（京都大学大学院農学研究科教授）

16:15-16:45 「*Braarudosphaera bigelowii* 複合種群に観察される種内多様性」

萩野 恭子（高知大学海洋コア総合研究センター国際研究所客員講師）

座長：大田 ゆかり（麻布大学生命・環境科学部教授）

16:45-17:15 「微生物の代謝能から紐解く根圏植物微生物超個体」

杉山 暁史（京都大学生存圏研究所准教授）

座長：吉永 直子（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

17:15-17:40 「敵の敵を味方につけるー植物と昆虫の高度な防衛戦略」

吉永 直子（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

座長：裏出 令子（京都大学複合原子力科学研究所研究員）

17:40-17:45 おわりに

大田 ゆかり（麻布大学生命・環境科学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「国立心理科学研究所構想の推進」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年3月16日（月）13：00 ～ 16：10
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本学術会議心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会では、「一人一人の well-being の達成」という目標を掲げて議論を進めてきた。ヒトゲノム解析により、ヒトに共通する生物基盤の解明が大きく進み、個人の疾病に対する脆弱性など多様性も判明しつつある。今ではテーラーメイド医療も視野に入る。一方、心理学は心の働きや行動を科学的に測定するための多様な手法を開発してきたが、これら膨大な研究成果は断片的であり、これらを単に集積しただけではヒトの心の共通性や、個人の特性や多様性は理解できない。ヒトの心の普遍性と多様性を理解するため、ひいては様々な社会課題の解決の基盤とするためには、多様な知見の統合と計画的なデータ収集が必要で、広範なデータ収集の仕組み、プロトコルの標準化、個人情報保護の方策を含む大規模な組織的取組が求められる。そのため、100 年単位でこの事業を継続的に実施できる機関、国立心理科学研究所が必須となる。

本シンポジウムでは、本分科会において発出予定の見解「国立心理科学研究所構想の推進」について議論する。

9. 次 第：

企画：坂田 省吾、齋木 潤、川合 伸幸、綾部 早穂

司会：川合 伸幸（日本学術会議連携会員／名古屋大学情報学研究科教授）

- 13:00 挨拶と企画趣旨説明：坂田 省吾（日本学術会議第一部会員／新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科教授）
- 13:10 話題提供 1：心理科学研究所構想の概要説明
齋木 潤（日本学術会議連携会員／京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
- 14:10 話題提供 2：東北メディカル・メガバンク計画とデータ利活用の概要
泉 陽子（東北大学東北メディカル・メガバンク機構副機構長／教授）
- 14:45-15:00 休憩
- 15:00 話題提供 3：志向性と未来の前線ー現代のフロンティア
入來 篤史（日本学術会議連携会員／帝京大学先端総合研究機構特任教授）
- 15:30 話題提供 4：一人一人の well-being の達成のためには
片桐 恵子（神戸大学ウェルビーイング先端研究センター教授／センター長）
- 16:00 閉会の挨拶：綾部 早穂（日本学術会議連携会員／筑波大学人間系教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「半導体テクノロジーはウェルビーイングを向上させられるのか？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会
2. 共 催：公益社団法人応用物理学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年3月17日（火）13：30 ～ 18：00
5. 場 所：東京科学大学大岡山キャンパス（東京都目黒区大岡山2丁目12-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

現代社会では、ウェルビーイングを低下させる様々な要因が存在しますが、特にメンタルにダメージを与えるストレスが問題になっているかと思われます。人々の身体やメンタルの状況を計測するための技術開発は活発に行われています。例えば、パナソニックのデジタルヒューマン技術やデンソーの共感空間、アイシンの皮膚ガスセンサーをはじめ、様々な技術の開発が進められています。一方で、メンタルのダメージを解消する試みは数多くありますが、カウンセラーが介在するアナログ的な方法が一般的で、その方法や効果も千差万別と言われています。今回は大阪大学工学研究科で実施されているメンタルの改善に実績のあるカウンセリング手法に注目いたしました。

今回のシンポジウムでは、現在の半導体テクノロジーを駆使して、カウンセリング中の生体情報を計測するとともに、画像データや音声データとの相関を機械学習等で分析することで、どこまでメンタルのストレスを低減できるのか、そしてどのようなデバイスが開発されれば一層、ストレスの低減が可能になるのか等について議論を深めます。

9. 次 第：

総合司会：

西澤 典彦（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院工学研究科電子工学専攻教授）

藤島 実（日本学術会議連携会員／広島大学大学院先進理工系科学研究科量子物質科学
プログラム教授）

13：30－13：35 はじめに：

大橋 弘美（日本学術会議第三部会員／古河電気工業株式会社シニアフェロー）

13：35－13：40 趣旨説明

森 勇介（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科教授）

13：40－14：20 ウェルビーイングの観点から本シンポジウムに期待すること

鈴木 寛（東京大学教授／慶應義塾大学特任教授）

14：20－14：50 より良いウェルビーイングへの心理学的アプローチ 心痛い記憶の解消
法

根岸 和政（大阪大学大学院工学研究科准教授）

14：50－15：10 心理的アプローチがひらいた異分野連携の扉 一境界領域研究をスミーズにする心のメカニズムー

丸山 美帆子（大阪大学大学院工学研究科教授）

15：10－15：20 休憩

15：20－15：40 無意識のブレーキに気づいたその先にあった、より生きやすい日常

佐々木 恵梨（日東電工株式会社全社技術部門研究開発本部基幹技術研究センター機能
設計第2グループ主任研究員）

15：40－16：10 センシングによるカウンセリングの状態定量化の試み

丸山 博（パナソニック株式会社プロダクト解析センター係長）

16：10－16：40 ウェルビーイングの向上に向けた共感空間

伊藤 隆文（株式会社デンソー先端技術研究所 HMI 研究室長）

16：40－16：55 休憩

16：55－17：55 パネル討論

司会：森 勇介（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科教授）

パネラー：西澤 典彦（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院工学研究科電子工学
専攻教授）、藤島 実（日本学術会議連携会員／広島大学大学院先進理工系科
学研究科量子物質科学プログラム教授）、大橋 弘美（日本学術会議第三部会
員／古河電気工業株式会社シニアフェロー）、森 勇介（日本学術会議連携会
員／大阪大学大学院工学研究科教授）、鈴木 寛（東京大学教授／慶應義塾大
学特任教授）、根岸 和政（大阪大学大学院工学研究科講師）、丸山 美帆子
（大阪大学大学院工学研究科教授）、佐々木 恵梨（日東電工株式会社全社技
術部門研究開発本部基幹技術研究センター機能設計第2グループ主任研究
員）、丸山 博（パナソニック株式会社プロダクト解析センター係長）、伊藤
隆文（株式会社デンソー先端技術研究所 HMI 研究室長）

17：55－18：00 シンポジウム総括（クロージング）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「教育改革と可視化ー生成 AI による教育改革」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：大阪成蹊大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 3 月 19 日（木）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪府大阪市東淀川区相川 1 丁目 3－7）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、第 1 ～ 3 回公開シンポジウムでの議論を総括し、教育改革における可視化の価値と方向性を示す「見解（素案）」を提示し、参加者から広くフィードバックを得ることを目的とする。特に、個人差（ワーキングメモリ差）を踏まえたウェルビーイングの保障、協働学習における取り残され感の可視化、生成 AI による LOD (Level of Detail) 調整、WBI (Well-Being Indicators) 整備の必要性など、2025 年以降の教育政策に向けた核心論点を扱う。

9. 次 第：

☐ 総合司会

水井 賢文（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹）

☐ 開会挨拶および趣旨説明（5 分）

小山田 耕二（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部長／教授）

☐ 基調講演（90 分）

「ウェルビーイングと包摂性から読み解く教育改革：AI 活用がもたらす新しい高等教育像」

山田 礼子（日本学術会議連携会員／同志社大学社会学部教授）

□ パネル討論（60 分）

タイトル：「可視化が導く教育改革の未来—個人差・ウェルビーイング・AI 活用をめぐって」

パネリスト（予定）：

- 小山田 耕二（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部長／教授）
- 筑本 知子（日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授）
- 志村 祐康（国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域再生可能エネルギー研究センター主任研究員）
- 林 宏樹（雲雀丘学園中学校・高等学校教員）
- 服部 翔大（横河デジタル株式会社 DX/IT コンサルティング事業本部マネージャー）
- 水井 賢文（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹）
- 巳波 弘佳（関西学院大学副学長／教授）
- 山辺 真幸（一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科特任講師）

□ 全体討論・質疑応答（20 分）

□ 閉会挨拶（5 分）

筑本 知子（日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 72 回構造工学シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 4 月 11 日（土）09:00～17:45
4 月 12 日（日）09:00～12:00
5. 場 所：国立大学法人宇都宮大学陽東キャンパス（栃木県宇都宮市陽東 7-1-2）
※一般講演会 国立大学法人宇都宮大学陽東キャンパス 8 号館・11 号館
※記念講演会 国立大学法人宇都宮大学陽東キャンパス 10 号館（アカデミアホール）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：なし

8. 開催趣旨：

本シンポジウムでは、査読付き論文集「構造工学論文集」の登載論文の研究発表や、建築・土木両分野にまたがる共通課題について相互理解を深めるための特別講演やパネルディスカッションを行い、産官学を横断した各界の研究者や技術者に学術・技術交流の場を提供し、もって構造工学分野の一層の発展を図ることを目的として開催する。

第 72 回目となる今回のシンポジウムは宇都宮大学で開催され、2019 年以来 6 年振りに東京以外での開催となる。栃木県は 2011 年東北地方太平洋沖地震、2015 年豪雨による鬼怒川氾濫などの自然災害を経験している。また、宇都宮大学では防災に関わる教育・研究・地域連携を総合的に推進する地域防災に力を入れている。

このような点から、今回は「構造工学の視点から考える地域防災」をテーマとして、特別講演とパネルディスカッションを企画した。特別講演ではまず、能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備えに関し、日本学術会議での議論を紹介する。その後のパネルディスカッションでは、2024 年能登半島地震等の事例を踏まえ、地域防災さらには広域の防災・減災対策を建築構造、土木構造を対象とした構造工学の視点から振り返り、地方だけではなく首都圏等における今後の防災・減災に関わる技術を議論する。

9. 次 第：

○一般講演会

日時：令和8年4月11日(土)09:00～15:00・12日(日)09:00～12:00

内容：建築、土木および合同セッションに分かれて研究発表を行う。

[建築部門セッション]

4月11日(土) 13:00～15:00 2会場×1枠＝2セッション

4月12日(日) 09:00～12:00 2会場×2枠＝4セッション

[土木部門セッション]

4月11日(土) 09:00～15:00 3会場×2枠＝6セッション

4月12日(日) 09:00～12:00 3会場×2枠＝6セッション

[合同セッション]

4月11日(土) 13:00～15:00 1会場×1枠＝1セッション

4月12日(日) 09:00～12:00 1会場×2枠＝2セッション

○記念講演会

日時：令和8年4月11日(土) 15:00～17:45

内容：テーマ設定にもとづいて有識者による話題提供や討論を行う。

開会の挨拶 (15:00～15:09)

佐々木 葉 (日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授／公益社団法人土木学会前会長)

米田 雅子 (一般社団法人防災学術連携体代表幹事／宇都宮大学理事)

特別講演 (15:10～16:09)

「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」 (仮称)

竹内 徹 (日本学術会議第三部会員／東京科学大学名誉教授／一般社団法人日本建築学会前会長)

司会：永野 正行 (日本学術会議連携会員／東京理科大学創域理工学部建築学科教授)

パネルディスカッション (16:15～17:45)

「地域防災に貢献する構造工学」

荒木 康弘 (国土技術政策総合研究所住宅研究部住宅生産研究室室長)

石井 大一郎 (宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科教授)

鋤田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授)

藤倉 修一 (日本学術会議連携会員／宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科教授)

司会：田井 政行 (摂南大学理工学部都市環境工学科准教授)

山本 憲司（東海大学建築都市学部建築学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「周術期等口腔機能管理の意義と課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会
2. 共 催：特定非営利活動法人日本口腔科学会
3. 後 援：一般社団法人日本歯学系学会協議会、日本生命科学アカデミー（すべて予定）
4. 日 時：令和8（2026）年4月18日（土）15：00 ～ 16：30
5. 場 所：朱鷺メッセ新潟県コンベンションセンター
（新潟県新潟市中央区万代島6番1号）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

2012年に、がんを始めとして多種の疾患の治療をする医師らと連携し、手術時のみならず、化学療法や放射線療法等の治療の前後に歯科医師が包括的な口腔管理を行い、治療の過程で生じる合併症や有害事象の予防及び軽減を目的として、歯科の診療報酬に周術期等口腔機能管理が導入された。その際、多くの歯科医師にとっては不慣れなものであったため、適切に実施するために全国で多くの講習会が開催され、学部学生や研修歯科医教育においても新たな分野として組み込まれた。その後、10年以上が経過したが、期待どおりの効果が得られているのか、医科歯科連携の実施体制や歯科医師の教育に問題はないかなどの検証が必要であろう。

本シンポジウムでは、厚生労働省、周術期等口腔機能管理の実施の最前線である病院歯科、学部学生や研修歯科医教育に携わる大学の立場から、現状と課題、そして将来の展望について議論する。

9. 次 第：

1) 開会挨拶

15:00 村上 伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）

2) 講演

座長

中村 誠司（日本学術会議連携会員／九州大学大学院歯学研究院特任教授）

後藤 多津子（日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学講座教授）

15:05 『医科歯科連携の推進と課題 ～周術期等口腔機能管理の観点から～』
調整中（厚生労働省●●局●●課長）

15:25 『病院歯科で実施する周術期等口腔機能管理の現状と課題』
栗田 浩（信州大学医学部歯科口腔外科教授）

15:45 『大学で教育する周術期等口腔機能管理教育の現状と課題』
西 裕美（広島大学病院口腔総合診療科診療講師）

3）総合討論

16:05 進行：

中村 誠司（日本学術会議連携会員／九州大学大学院歯学研究院特任教授）

前川 知樹（日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯学総合研究科
高度口腔機能教育研究センター研究教授）

討論者

調整中（厚生労働省●●局●●課長）

栗田 浩（信州大学医学部歯科口腔外科教授）

西 裕美（広島大学病院口腔総合診療科診療講師）

4）閉会挨拶

16:25 森山 啓司（日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総合
研究科顎顔面矯正学分野教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「国際シンポジウム：誤情報・偽情報時代のリスクコミュニケーション
：食品安全に資する正確な情報伝達」

(Risk Communication in the Age of Mis- and Disinformation
： Delivering Accurate Information in Food Safety)

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、
食料科学委員会・基礎医学委員合同獣医学分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和8（2026）年5月19日（火）13：00 ～ 15：05

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

急速に変化する今日の国際社会において、リスクコミュニケーションはこれまでにない複雑な課題に直面しています。食品リスクのグローバル化、気候変動による食料安全保障への影響の拡大に加え、ソーシャルメディアや生成AIに起因する誤情報・偽情報の氾濫など、一般市民が正確で信頼できる情報を受け取ることの重要性はこれまで以上に高まっています。

本シンポジウムでは、食品安全に関する科学的根拠に基づく正確な情報提供をいかに強化するかを考察します。国際的な専門家が、誤情報・偽情報を検出・対抗するための最先端のシステムを紹介するとともに、それらが拡散する社会的増幅メカニズムについて分析します。

さらに、消費者をエンパワーし、政策立案者を支援し、食品システムへの信頼を回復するための、強靱なリスクコミュニケーション戦略の構築方法について議論します。

9. 次 第： ※当日使用する言語は英語、AIによる字幕通訳あり
13:00 - 13:05

開会挨拶 堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣
医薬理学研究室教授）

司会：石塚 真由美（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院獣医学研究院教授）
有路 昌彦（日本学術会議連携会員／近畿大学世界経済研究所教授）

13:05 - 13:25

「福島原発事故に関連して生じた食品に関する誤情報」

西澤 真理子（日本学術会議連携会員／株式会社リテラジャパン代表取締役）

13:25 - 13:45

「インターネット空間における誤情報とファクトチェック（仮）」

ハン・スンテ（ジョージア工科大学博士課程大学院生）

13:45 - 14:05

「ファクトチェック：世論や市民の意見の理解と分析（仮）」

ニコラス・ファング（Black Dot Research 創業者兼マネージング・ディレクター）

14:05 - 14:25

「ファクトチェック・ジャーナリズム（仮）」

立岩 陽一郎（InFact 編集長）

14:30 - 15:00

パネルディスカッション及び質疑応答

「リスク・クライシスコミュニケーションにおける中核としてのファクトチェック」

モデレーター：

石塚 真由美（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院獣医学研究院教授）

有路 昌彦（日本学術会議連携会員／近畿大学世界経済研究所教授）

15:00 - 15:05

閉会挨拶 有路 昌彦（日本学術会議連携会員／近畿大学世界経済研究所教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「ライフステージからみた口腔機能の獲得・維持・向上と全身の健康」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本小児歯科学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 5 月 21 日（木）13：00 ～ 15：00
5. 場 所：沖縄コンベンションセンター劇場棟（会議場 C）
（沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

人生 100 年時代を豊かに生きるためには、歯や口腔の健康を維持増進することが不可欠であり、特に口腔機能の維持向上が重要となる。2018 年、小児期の口腔機能の獲得・維持向上を支援するために「口腔機能発達不全症」が、そして高齢期における口腔機能の低下を予防・改善するために「口腔機能低下症」が新たな病名として保険収載された。すなわち、ライフステージを通じて一貫した支援体制の整備が求められる時代となった。

そこで、本シンポジウムでは、日本学術会議歯学委員会と日本小児歯科学会が共同して、小児期からの口腔機能の育成の重要性とその後の成人期の取組みについて並びに高齢期における口腔機能の低下と全身的な健康の関わりについて理解を深めることをねらいとして開催する。

9. 次 第：

1) 開会挨拶

13:00 村上 伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）

2) 講演

座長

森山 啓司（日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野教授）

岩本 勉（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科小児歯科

- 学・障害者歯科学分野教授／公益社団法人日本小児歯科学会常務理事)
- 13:05 オープニングリマーク
朝田 芳信 (日本学術会議連携会員／鶴見大学歯学部小児歯科学講座教授／公益社団法人日本小児歯科学会常務理事)
- 13:15 小児歯科関連 (演題未定)
藤田 優子 (日本小児歯科学会九州地方会常任幹事／長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻発達育成歯科学分野主任教授)
- 13:45 成人期関連 (演題未定)
大久保 力廣 (公益社団法人日本補綴歯科学会理事長／鶴見大学歯学部歯学科口腔リハビリテーション補綴学講座教授)
- 14:15 高齢期関連 (演題未定)
戸原 玄 (一般社団法人日本老年歯科医学会常任理事／東京科学大学摂食嚥下リハビリテーション学分野教授)
- 14:45 総合討論
- 3) 閉会挨拶
- 14:55 樋田 京子 (日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「世界観と地域の多様性から考える人と自然のウェルビーイング」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年5月23日（土）14：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

2030年のネイチャー・ポジティブ、2050年の自然共生社会の実現に向けた取組が進む一方で、人と自然の関係のあり方については必ずしも十分に議論されていない。価値観や世界観が多様化する現代においては、自然観・倫理・文化・地域性を踏まえた多角的な検討が不可欠である。人間と自然を二項対立で捉える従来の枠組みに対し、非人間を一人前のアクターとみなす、文化相対主義の認識論を乗り越える存在論に重点を移すなど関連諸分野で様々な試みがなされてきた。仏教思想のレンマや民俗・伝承にみられる自然観など、多様な世界認識に基づくアプローチは、制度的・科学的枠組みに立脚してきた生態系管理・土地利用政策を根本から問い直す契機となる。

また、人間のウェルビーイングと地球環境問題の双方に応えるには、画一的な手法では限界があり、地域の文化・自然条件・内発的価値に根ざしたアプローチが重要である。都市だけでなく地域からの視点を重視し、多様性と包摂性を軸とした新たな「人と自然」関係の再構築が求められる。

本シンポジウムでは、倫理・文化・言語・認識論など多様な視点から最新の知見を共有し、ウェルビーイング向上と自然共生社会に向けた可能性を議論する。さらに、分野横断的な連携を通じて、現代社会・地域社会が抱える課題に学術がどう貢献できるかを展望する。

9. 次 第：

14：00 開会挨拶および趣旨説明

大黒 俊哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

14：05 第1セッション「多様な世界観から捉え直す「自然－人間」関係」

『関係的存在論としての「自然－人間」関係』

井上 真（日本学術会議連携会員／早稲田大学人間科学学術院教授）

『仏教思想と環境世界』

岡田 文弘（身延山大学講師（特任））

『生物多様性保全・生態系管理における「自然－人間」関係』

吉田 丈人（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

休憩（10分）（15：10～15：20）

15：20 第2セッション「地域に根ざしたウェルビーイングの探求」

『伝統知・地域知に基づく里山里海の「自然－人間」関係とランドスケープアプローチ』

深町 加津枝（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂准教授）

『都市における「自然－人間」関係とウェルビーイング』

村上 暁信（日本学術会議連携会員／筑波大学システム情報系教授）

『ローカル経済からの「自然－人間」関係の再構築：地域伴走型の実践とネイチャー・ポジティブへの移行』

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16：25 総合討論

進行：北島 薫（日本学術会議第二部会員／京都大学大学院農学研究科教授）

16：55 閉会挨拶

森口 祐一（日本学術会議第三部会員／東京大学名誉教授／国立環境研究所名誉研究員）

総合司会：

森本 淳子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院農学研究院教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 38 回環境工学連合講演会」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境科学・環境工学分科会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、一般社団法人環境資源工学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、一般社団法人静電気学会、公益社団法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本 LCA 学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壌肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（下線は幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 5 月 26 日（火）9：30 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
「2030 生物多様性枠組実現日本会議」（J-GBF）では、2023 年に「J-GBF ネイチャーポジティブ宣言／行動計画」を公表した。ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現には、生態系の保全と回復だけでなく、気候変動対策、持続可能な生産・消費のための取組等も必要である。そこで、第 38 回環境工学連合講演会は、「ネイチャーポジティブの実現に向けた環境工学の役割」という総合テーマで、2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せるために、人類存続の基盤としての健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持し回復させ、自然資本を守り活かす社会経済活動を広げることにつながる多様な研究成果の話題提供により、環境工学の立場からネイチャーポジティブの実現に貢献する機運を高めたい。

9. 次 第：

■開会（9:30～9:40）

◎開会挨拶

北川 尚美（日本学術会議第三部副部長／東北大学大学院工学研究科研究科長補佐・教授）

□【環境評価と技術開発（9:40～11:00）】

◎座長：奥田 知明（公益社団法人日本化学会／慶應義塾大学理工学部教授）

A-01 招待講演：

サンゴ礁海域の希少微生物が生産する有用分子の構造と機能

岩崎 有紘（公益社団法人日本化学会／中央大学理工学部准教授）

A-02 招待講演：

持続可能な未来を支える静電気科学

枋久保 文嘉（一般社団法人静電気学会／東京都立大学システムデザイン研究科教授）

A-03 招待講演：

海洋酸性化の可視化と予測に向けた次世代半導体式 pH センシング技術の開発

中嶋 秀（公益社団法人日本分析化学会／東京都立大学大学院都市環境科学研究科環境応用化学域准教授）

A-04 招待講演：

環境負荷量を正確に把握するための大気中ガス・粒子オンライン観測・分析システムの開発

竹内 政樹（公益社団法人大気環境学会／徳島大学大学院医歯薬学研究部（薬学域）准教授）

□【産業と資源循環（11:10～12:30）】

◎座長：松山 智哉（一般社団法人日本機械学会／三機工業株式会社環境システム事業部環境エンジニアリング部部長）

A-05 招待講演（英語発表）：

（仮題）Nature-positive Approaches to Mineral Processing and Metallurgy: Green Gold Recovery and Reuse of Mine Tailings

（仮題）鉱物処理と製錬プロセスへのネイチャーポジティブ的アプローチ：環境に優しい金回収と鉱山尾鉱の再利用

JEON Sanghee（一般社団法人環境資源工学会、一般社団法人資源・素材学会／秋田大学国際資源学研究科資源開発環境学准教授）

A-06 招待講演：

ネイチャーポジティブとサステイナブル社会形成を目指した鉄鋼スラグの活用と課題

高橋 利幸（一般社団法人日本鉄鋼協会／都城工業高等専門学校教授）

A-07 招待講演：

炭素循環と地方創生を両立するバイオマスガス化の技術的枠組み

義家 亮（一般社団法人日本機械学会／岐阜大学工学部教授）

A-08 招待講演：

ネイチャーポジティブに資する横浜市水道局の取組み

～清らかな水を横浜へ。道志水源林の100年とこれから～

山口 哲司（公益社団法人日本水道協会／横浜市水道局浄水部水源林管理所長）

■【特別講演（13:30～14:00）】

◎座長：小瀬 博之（公益社団法人空気調和・衛生工学会／東洋大学総合情報学部総合情報学科教授）

S-01 特別講演：

（仮題）環境におけるリジェネラティブデザインを目指して

～サステナビリティのその先へ～

水出 喜太郎（公益社団法人空気調和・衛生工学会／株式会社日建設計常務執行役員エンジニアリング部門統括）

□【陸と海の世界再生（14:10～15:50）】

◎座長：中井 智司（公益社団法人化学工学会／広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

P-01 招待講演：

（仮題）漁業者による持続的な海洋ごみ回収活動に関する環境経済モデル～対馬市の事例

中山 裕文（一般社団法人廃棄物資源循環学会／九州大学工学研究院教授）

P-02 招待講演：

汽水域の都市運河におけるネイチャーポジティブの実装

上月 康則（公益社団法人土木学会／徳島大学環境防災研究センター教授）

P-03 招待講演：

（仮題）乾燥地及び沿岸域での生態系修復と温暖化対策へのアプローチ

酒井 裕司（公益社団法人化学工学会／工学院大学先進工学部准教授）

P-04 招待講演：

（仮題）ネイチャーポジティブに向けた沿岸環境・生態系デジタルツイン開発への挑戦

東 博紀（公益社団法人日本水環境学会／国立研究開発法人国立環境研究所地域環境保全領域上級主幹研究員）

P-05 招待講演：

農地から発生する温室効果ガスとその削減

秋山 博子（一般社団法人日本土壌肥料学会／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門グループ長）

□【自然共生と社会（16:00～17:20）】

◎座長：小澤 一喜（公益社団法人地盤工学会／鹿島建設株式会社土木管理本部土木工務部環境緑化造成グループ担当部長）

P-06 招待講演：

（仮題）LCAにおけるCO₂の生物多様性影響評価係数の開発

湯 龍龍（一般社団法人日本LCA学会／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門主任研究員）

P-07 招待講演：

自然と人間との関わりを通じた環境保全態度・行動の醸成

甲斐田 直子（公益社団法人環境科学会／筑波大学システム情報系准教授）

P-08 招待講演：

人と自然との共生を考える建築環境

近本 智行（一般社団法人日本建築学会／立命館大学理工学部教授）

P-09 招待講演：

ネイチャーポジティブ社会実現に向けたネイチャーテックの開発と地域連携

保高 徹生（公益社団法人地盤工学会／国立研究開発法人産業技術総合研究所ネイチャーポジティブ技術実装研究センター副研究センター長）

■閉会（17:20～17:30）

◎第38回環境工学連合講演会の総括

森口 祐一（日本学術会議第三部会員／東京大学名誉教授／国立研究開発法人国立環境研究所名誉研究員）

◎閉会挨拶

浅見 真理（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域上級主席研究員・水道水質研究和光分室長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「脳と摂食嚥下のクロストーク～健康長寿社会実現に向けた未来への道標～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会臨床系歯学分科会、病態系歯学系分科会、基礎系歯学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本補綴歯科学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 6 月 21 日（日）13：50 ～ 15：50
5. 場 所：ウインクあいち（愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、適切な口腔健康管理は、生活習慣病や認知機能障害等の予防に寄与し、全人的な健康を支える基盤となることから、健康長寿社会実現の鍵として注目されています。摂食・嚥下といった口腔機能の低下は、低栄養のみならず、生きる意欲や QOL（生活の質）の低下を招き、さらには心身機能全体の減弱を引き起こします。また、歯周病などの口腔疾患が全身疾患の発症・増悪のリスクファクターとなることも知られています。このように口腔と全身の密接な関連が示唆される一方で、高次複雑系である生体において、その連関を科学的エビデンスに基づき解明し、制御することは容易ではありません。

日本学術会議では 2020 年の提言「第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）」において、歯学委員会より①「口腔と全身のクロストーク」、②「脳と摂食嚥下のクロストーク」という 2 つの戦略プロジェクトを公表しました。①に関しては、う蝕・歯周病などの口腔疾患と心血管障害、糖尿病や誤嚥性肺炎等との関連について多くの知見が得られ、生活習慣病管理の観点から医科歯科連携の定着につながる成果となっています。

一方、②の「脳と摂食嚥下のクロストーク」についても、オーラルフレイルや口腔機能低下と、心身フレイル、認知症等との関連解明が進みつつあります。しかしながら、口腔機能の精密な評価技術や、超高齢社会における臨床研究の困難さといった課題も多く、脳

と摂食嚥下の関連メカニズム（クロストーク）の全容はいまだ解明の途上にあります。

そこで、本シンポジウムでは、脳と摂食嚥下の基礎・臨床の最前線で活躍する研究者を招き、最新の知見をご教示いただくとともに、健康長寿社会の実現に向けた道標となる方策について議論を深めます。

9. 次 第：

1) 開会挨拶

13:50 村上 伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）

大久保 力廣（公益社団法人日本補綴歯科学会理事長／鶴見大学歯学部
歯学科口腔リハビリテーション補綴学講座教授）

2) 講演

座長

馬場 一美（日本学術会議連携会員／昭和大学教授）

松山 美和（日本学術会議連携会員／徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

13:55 イントロダクション

14:00 『認知機能と口腔機能の相関に関する探索的研究（ECCO）プロジェクト』
笛木 賢治（東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授・歯学部長）

14:30 『高齢者の歯の喪失はアルツハイマー病の起因となる？』

後藤 多津子（日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学講座
教授）

15:00 『認知症の口腔機能と食行動』

池田 学（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授）

3) 総合討論

15:30 進行

馬場 一美（日本学術会議連携会員／昭和大学教授）

森山 啓司（日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総合
研究科顎顔面矯正学分野教授）

討論者

笛木 賢治（東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授・歯学部長）

後藤 多津子（日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学講座
教授）

池田 学（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授）

松山 美和（日本学術会議連携会員／徳島大学大学院医歯薬学研究部教
授）

4) 閉会挨拶

15:45 樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「歯科基礎医学研究から社会実装へ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会
2. 共 催：一般社団法人歯科基礎医学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 5 日（土）17：00 ～ 18：30
5. 場 所：愛知学院大学名城公園キャンパス（愛知県名古屋市北区名城 3 丁目 1-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

歯科基礎医学では、口腔の発生、口腔細菌、口腔免疫、口腔組織再生など様々な領域の基礎的な研究が盛んに行われているが、実用化に至るまでの道のりは長く、社会実装されているものはほんの一部であるのが現状である。

本シンポジウムでは、これからの歯学研究の産学連携及び実用化において重要な方策、予算の獲得、規制等について討論し、今後の歯科基礎医学研究から社会実装までの戦略を展望する。

9. 次 第：

座長

古江 美保（日本学術会議連携会員／株式会社セルミック代表取締役）

前川 知樹（日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究教授／一般社団法人歯科基礎医学会評議員）

1) オープニングリマークス

17:00 樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授／一般社団法人歯科基礎医学会研究委員会委員）

2) オーバービュー

17:05 前川 知樹(日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究教授／一般社団法人歯科基礎医学会評議員)

3) プレゼンテーション

17:08 『演題未定』

古江 美保(日本学術会議連携会員／株式会社セルミック代表取締役)

17:23 『演題未定』

江草 宏(日本学術会議連携会員／東北大学大学院歯学研究科教授／一般社団法人歯科基礎医学会会員)

17:38 『演題未定』

宿南 知佐(日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科教授／一般社団法人歯科基礎医学会会員)

17:53 『演題未定』

浅野 武夫(国立研究開発法人日本医療研究開発機構推進役)

4) パネルディスカッション

18:10 進行：

前川 知樹(日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究教授／一般社団法人歯科基礎医学会評議員)

討論者

古江 美保(日本学術会議連携会員／株式会社セルミック代表取締役)

江草 宏(日本学術会議連携会員／東北大学大学院歯学研究科教授／一般社団法人歯科基礎医学会会員)

宿南 知左(日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科教授／一般社団法人歯科基礎医学会会員)

浅野 武夫(国立研究開発法人日本医療研究開発機構推進役)

5) クロージングリマークス

18:25 石丸 直澄(日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野教授／一般社団法人歯科基礎医学会編集委員会委員)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

○国内会議の後援（４件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

主催：公益社団法人日本工学会

共催：公益社団法人日本工学会 CPD 協議会

科学技術人材育成コンソーシアム

期間：令和8年3月4日（水）

場所：オンライン開催

参加予定者数：約 100 名

申請者：公益社団法人日本工学会 会長 須藤 亮

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

2. 第90回特別企画：日本学術会議「循環器・腎・代謝内分泌分科会」との合同企画セッション「心腎代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）を本邦でどう考え、どう展開するのか」

主催：第90回日本循環器学会学術集会 会長 野出 孝一

期間：令和8年3月20日（金・祝）

場所：福岡国際会議場 3Fメインホール（福岡県福岡市博多区）

参加予定者数：約 15,000 名

申請者：第90回日本循環器学会学術集会 会長 野出 孝一

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

3. 化学工学会第91年会特別シンポジウム「2050年カーボンニュートラルへの道」

主催：公益社団法人化学工学会 地域連携カーボンニュートラル推進委員会

戦略推進センター CCUS 検討委員会

戦略推進センター SDG s 検討委員会

共催：一般社団法人触媒学会（予定）

期間：令和8年3月16日（月）

場所：京都大学 吉田キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約 200 名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 永松 治夫

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

4. 化学工学会第 91 年会シンポジウム「SDGs 達成に向けた札幌宣言の実行ープラスチック資源循環に向けた行動変容と新たな価値の創造ー」

主催：公益社団法人化学工学会 戦略推進センター SDG s 検討委員会

共同主催：公益社団法人化学工学会 地域連携カーボンニュートラル推進委員会

共催：公益社団法人化学工学会 産学官連携センター

男女共同参画委員会（予定）

期間：令和 8 年 3 月 18 日（水）

場所：京都大学 吉田キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約 100 名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 永松 治夫

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第 3 9 7 回幹事会	令和 8 年 2 月 2 7 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 9 8 回幹事会	令和 8 年 3 月 2 3 日（月）	1 0：0 0 から
第 3 9 9 回幹事会	第 1 9 6 回総会期間中に開催予定	1 3：3 0 から
第 4 0 0 回幹事会	令和 8 年 5 月 2 9 日（金）	1 3：3 0 から
第 4 0 1 回幹事会	令和 8 年 6 月 2 6 日（金）	1 3：3 0 から
第 4 0 2 回幹事会	令和 8 年 7 月 1 7 日（金）	1 3：3 0 から
第 4 0 3 回幹事会	令和 8 年 7 月 3 1 日（金）	1 3：3 0 から
第 4 0 4 回幹事会	令和 8 年 8 月 2 1 日（金）	1 3：3 0 から
第 4 0 5 回幹事会	令和 8 年 9 月 3 日（木）	1 3：3 0 から
第 4 0 6 回幹事会	令和 8 年 9 月 1 8 日（金）	1 3：3 0 から

●総会

第 1 9 6 回総会	令和 8 年 4 月 9 日（木）～1 1 日（土）
第 1 9 7 回総会	令和 8 年 8 月 6 日（木）～7 日（金）